令和7年度 環境保全実施報告

１. 重点取組み目標・計画の実施状況　２頁

２. 公害防止対策に係る報告

目標達成状況と目標達成のために講じた措置・対策内容　３頁

①別表１ ばい煙発生施設ばい煙濃度測定結果　４頁

②別表２ 排出水の汚濁状態測定結果　５頁↓６頁

③別表３ 敷地境界線騒音及び粉じん測定結果　７頁

３. 公害防止対策以外の環境保全活動に係る報告　８頁

４. 省エネルギー・地球温暖化対策の取組みに係る報告　９頁↓11頁

三菱重工株式会社神戸造船所

1. 重点取組み目標・計画 実施状況

環　境　目　標	実施状況	結果※
(1) 環境コンプライアンス違反ゼロ	・環境負荷の高い設備に対する定期的な環境パトロールの実施 ・公害防止管理者による特定施設の管理 ・緊急事態対応訓練の実施	○ 重大コンプライアンス違反なし
(2) CO_2 排出量の削減 【総排出量】 2014 年度 96 万トンから 2026 年度 50.5 万トンへ削減	・照明のLED化、高効率機器への更新を推進 ・省エネ活動の推進 （不要照明の消灯、エアコンの効率的な利用）	○ 2025 年度の目標 54.0 万トンに対し 23.4 万トン
(3) 2026 年度の水使用量を、2014 年度比で 12%改善	・漏水箇所の調査/修理 ・節水機器導入推進等の継続	△ 2025 年度実績 8%改善
(4) 2026 年度の廃棄物排出量を、2014 年度比で 12%改善	・有価物（金属・紙）の分別徹底 ・紙使用量の削減推進等の継続 ・プラスチックに係る資源循環等の推進	△ 2025 年度実績 1%削減
(5) PCB 低濃度含有機器全廃への取り組み	・低濃度 PCB 含有機器の把握（調査）推進 ・PCB 含有機器の処分推進	○ 計画どおり推進

※ ○：達成　△：改善しているが目標未達　×：未達（悪化）

2. 公害防止対策に係る報告

(1) 目標達成状況と目標達成のために講じた措置・対策

目　標　項　目			目標達成状況	目標達成の措置・対策
大気汚染防止対策	ばい煙排出規制の遵守		排出にかかる目標値を全ての測定結果が満たしていた。 測定結果は別表1のとおり。	排ガス処理施設の適正な維持管理に努めるとともに「排ガス中のばい煙濃度測定計画」に基づく測定分析により、目標値の遵守状況を確認した。公害防止管理者によるパトロールを実施し、未届け改造などの無いことを確認した。
水質汚濁防止対策	公共用水域に排出する場合	排出水の水質管理及び汚濁負荷の総量管理	排出にかかる目標値を全ての測定結果が満たしていた。測定結果は別表2のとおり。	排水処理施設の適正な維持管理に努めるとともに、「排出水の汚濁状態測定計画」及び「排出水の汚濁負荷量(COD、全窒素、全りん)の測定計画」により、目標値の遵守状況を確認した。また、排水口の監視装置のﾒﾝﾃﾅﾝｽを確実に実施し、更なる汚濁負荷低減に取り組んだ。
		富栄養化防止対策の推進		
騒音防止対策	法令等の基準の遵守		敷地境界線上測定箇所における全ての測定結果が目標値以下であった。 測定結果は別表3のとおり。	法令等の基準遵守の確認に必要な測定・監視体制を定め、必要に応じて測定・監視を行い、目標値の遵守状況を確認した。
産業廃棄物対策	廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の法令の規制を遵守 廃棄物の発生抑制、再利用の推進		産業廃棄物管理表は100%交付と期間内回収を確認できている(JESCO 向けを除き、電子マニフェスト 100%)。	廃棄物処理委託先の立入調査実施や、電子マニフェストの活用により、廃棄物の適正処理を推進した。 仕分けの徹底、リサイクル先の開拓、廃棄物抑制対策の啓蒙等に注力した。
振動防止対策	敷地境界線において振動が感知できないよう努める		敷地境界線における振動発生は生じていない。	発生源対策、距離減衰等により、敷地境界線において振動による感知はない。
悪臭防止対策	敷地境界線において悪臭が感知できないよう努める		敷地境界線における悪臭等は生じていない。	敷地境界線において悪臭の感知はない。

別表１　2025年度 ばい煙発生施設ばい煙濃度測定結果

	項目	目標値	測定値		全測定回数	目標値を超過した測定回数	目標値達成判定	法令基準達成判定
			最大	平均				
加熱炉 6’－20	窒素酸化物（ppm）	170	27	23	2	0	○	○
	ばいじん（mg／Nm³）	250	＜1	＜1	2	0	○	○
加熱炉 6’－22	窒素酸化物（ppm）	150	22	22	1	0	○	○
	ばいじん（mg／Nm³）	250	＜1	＜1	1	0	○	○
加熱炉 6’－26	窒素酸化物（ppm）	150	26	25	2	0	○	○
	ばいじん（mg／Nm³）	200	＜1	＜1	2	0	○	○

○：達成　　×：未達成

別表 -2　2025年度 排出水の汚濁状態測定結果

排水口名称	項目			目標値	測定値 最大（pHのみ 最小～最大）	測定値 平均	全測定回数	目標値を超過した測定回数	目標値達成判定	法令基準達成判定
Q排水口（総合廃水処理施設）	法令排水基準設定項目	有害物質	カドミウム及びその化合物	0.03	<0.001	<0.001	12	0	○	○
			鉛及びその化合物	0.1	<0.01	<0.01	12	0	○	○
			全水銀	0.005	<0.0005	<0.0005	12	0	○	○
			ほう素及びその化合物	230	0.3	0.3	2	0	○	○
			ふっ素及びその化合物	15	0.2	0.2	2	0	○	○
			アンモニア，アンモニウム化合物，亜硝酸化合物及び硝酸化合物	100	3.36	2.55	2	0	○	○
		生活環境項目	pH	5～9	6.4～7.6	―	12	0	○	○
			COD	35(25)	3.7	2.0	12	0	○	○
			SS	50(40)	3.0	1.3	12	0	○	○
			n－Hex	1.5	< 0.5	< 0.5	12	0	○	○
			溶解性鉄	10	< 0.1	< 0.1	12	0	○	○
			全クロム	2	0.01	0.01	12	0	○	○
			全窒素	120	<11.0	< 4.6	12	0	○	○
			全燐	16	0.09	0.03	12	0	○	○
			大腸菌数	(800)	< 2.0	< 2.0	2	0	○	○
市5排水口（機械SF西）	法令排水基準設定項目	有害物質	カドミウム及びその化合物	0.03	<0.001	<0.001	1	0	○	○
			鉛及びその化合物	0.1	<0.01	<0.01	1	0	○	○
			全水銀	0.005	<0.0005	<0.0005	1	0	○	○
		生活環境項目	pH	5～9	7.5	―	1	0	○	○
			COD	35(25)	3.3	3.3	1	0	○	○
			SS	50(40)	4.0	4.0	1	0	○	○
			n－Hex	1.5	<0.5	<0.5	1	0	○	○
			溶解性鉄	10	<0.1	<0.1	1	0	○	○
			全クロム	2	<0.01	<0.01	1	0	○	○
			全窒素	120	1.4	1.4	1	0	○	○
			全燐	16	0.74	0.74	1	0	○	○

単位はPHを除きmg／ℓ　○:達成　×:未達成　不検出:定量限界以下

（　）内は日間平均値

別表 3

2025年度 敷地境界線騒音及び粉じん測定結果

	測定場所	測定区分	目標値	測定値		全測定回数	目標値を超過した測定回数	目標値達成判定	法令基準達成判定
				最大	平均				
騒音	①地点 西2号棟 北駐車場	夜間（22:00～）	50 dB（A）	48		1	0	○	工業専用地域
	②地点 受電変電所 北	夜間（22:11～）	50 dB（A）	45		1	0	○	工業専用地域
	③地点 WE棟西	夜間（22:22～）	50 dB（A）	44		1	0	○	工業専用地域
粉じん	①地点 SD棟鋼管塗装場北側敷地境界付近	デジタル粉じん計	1.5 （mg／㎥）	＜0.01		1	0	○	粉じん元付近
	②地点 所内I共通書庫北側敷地境界付近	デジタル粉じん計	1.5 （mg／㎥）	＜0.01		1	0	○	粉じん元付近

○:達成　　×:未達成

3．公害防止対策以外の環境保全に係る報告

	分 野	項 目	手 段 ・ 対 策	実 施 状 況
1	環境マネジメントシステムの運用	ISO14001システムの効率的運用	・事業活動のムリ、ムダ、ムラを排除し、業務を効率化。 ・著しい環境側面を的確に導き出し、効果的な対策を実施	・環境マネジメントシステムの運用により、左記の活動を推進した。(ISO14001：2015 年版の認証を継続)
2	従業員及びビジネスパートナーへの教育	環境保全・改善活動に関する一般教育	・事務局及び各部門作成資料により全部門で実施 ・新入社員への教育	・環境目標とその結果を電子掲示板に掲示することにより、目標達成に対する意識の向上を図った。 ・新入社員の導入教育時に環境保全活動に関する教育を実施した。 ・キャリア採用社員に対しても、入社時に環境教育を実施した。
		特定作業に関する教育・訓練	・訓練ニーズ調査票に基づき特定作業に従事する社員に実施	・過去に事故が発生した事例を中心に教育や訓練を実施した。
		環境法令に関する教育	・環境管理実務担当者向けの教育を実施する。	・環境法令セミナーを受講し、環境法令に関する基礎知識や、動向等について教育を実施した。
3	地域社会への参画	地域住民との懇談会開催	・地元自治会との懇談会を月１回開催	・左記のとおり、懇談会を実施した。
		地域住民との交流	・事業所周辺の清掃	・左記のとおり、実施した。

4. 地球温暖化対策に係る報告

(1)2025 年度の電気・燃料等の使用量(神戸造船所神戸工場)

活動の区分	燃料・焼却物等の種類	2025 年度 使用量	単位	単位発熱量 (kJ)	排出係数	排出量 ($kg-CO_{2)}$	温暖化 係数
燃料の使用	揮発油	8,000	ℓ	33.4	0.0686	18,321	1
	灯油	59,000	ℓ	36.5	0.0686	147,658	1
	軽油	61,000	ℓ	38.0	0.0689	159,788	1
	A重油	78,000	ℓ	38.9	0.0708	214,720	1
	都市ガス	889,000	m^3	40.0	0.0513	1,825,413	1
	LPG	0	kg	50.1	0.0598	0	1
電気使用量		50,569,000	kWh	8.64	0.415	20,986,135	1
熱供給事業者から供給された熱の利用		―	―	―	―	―	―

(2)基準年度及び 2025 年度の温室効果ガス排出量(神戸造船所神戸工場)

(単位;$kg-CO_2$)

	温室効果ガス	排出量			増減率(%)		主な増減理由
		基準年度(2014 年度)	2024 年度	2025 年度	前年比	基準年度比	
神戸造船所	二酸化炭素	24,159,000	22,942,228	23,352,035	1.79%増	3.34%減	【基準年度比】 事業整理による 【前年度比】 暑熱対策で夏季の空調稼働が高まった。
	メタン	―	4,180	3,965	5.14%減	―	
	一酸化二窒素	―	6,281	5,963	5.06%減	―	
	HFC	―			―	―	
	PFC	―			―	―	
	六フッ化硫黄	―	0	0	増減無	―	

(3)基準年度の温室効果ガス排出量および削減目標(全社数値)

2023 年度までは原単位による評価をしていたが、生産とは関係のない現地作業も製造出荷額に含まれるため
原単位として評価できないことから、2024 年度からは CO_2 総排出量を提示します。

	排出量	削減目標	排出実績	備考
	基準年(2014 年度)	2025 年度	2025 年度	
CO_2 総排出量	95.8 万トン	54.0 万トン	23.4 万トン	2026 年度 50.5 万トンへ削減の目標達成に向け、全社で省エネや合理化などの取組みを推進中。

(4)目標達成のために講じた対策

【全社の取り組み】

措置の区分	手段・対策	実施状況
エネルギー使用の合理化	照明 LED 化:全事業所実施	○
	空調設備ヒートポンプ式化:全事業所実施	○
	高圧変器(受変電設備)トップランナーに更新:全事業所実施	○

【神戸造船所の取り組み】

措置の区分	手段・対策	実施状況
エネルギー使用の合理化	・ローカル変圧器の老朽更新、容量見直しによる高効率化 ・工場照明水銀灯 LED 化 ・都市ガス，工場エア漏洩調査・修理によるコンプレッサ電力量削減 ・上水、工水漏水調査、修理によるポンプ電力量削減	3 台 300 灯 漏洩箇所修理済み 漏洩箇所修理済み
その他	・太陽光発電の適正運転 ・ビル空調管理適正化(適正な温度管理) ・化石燃料の電化	50kW 日常監視 夏季・冬季実施 フォークリフト 3 台

(5) CO_2排出量の推移

